

# 自分の手元に来たものは、喜びに変えていく。仕事とは、楽しいもの。

お客さまの反応がダイレクトに感じられる仕事が多くて、遊園地の運営企画ができる鉄道会社に就職しました。念願が叶って、入社後の4年間はグループ会社へ出向し、ひらかたパークのイベント企画などに携わり、菊人形展を形にしていくなための一翼を担うなど、良い経験ができました。その後は本社へ異動となり、環境マネジメン トシステムのISO14001を取得するために設けられた部署へ。デスクワークは苦手でしたが、必要な仕事なのか疑問に思うこともありましたが、経営や財務などの業務に携わったことで、それまでにない視点を持てるようになったあの3年間があったから、今があると思っています。

事務部門にいた当時、企画の仕事に戻りたいと希望し続けていたものの、異動は思い通りにはなりません。そこで、駅や商業施設の空間デザインや演出を自主的に3年間勉強して、商業施設士の資格を取得。他社の商業施設の運営を受託する関係会社の事業が拡充されるタイミングとうまく重なり、現在の部署に配属されました。ワクワクした気持ちで、この会社に出向してきて6年目になります。

有する建物の価値や収益を上げることを目的に、テナントを入れ替えたり、新規の施設であれば、コンセプトに沿ったテナントを探して誘致し、商業施設をつくり上げていくことが主な業務です。華やかに見えるかもしれませんが、実際は、人脈と足とインターネットで情報収集を行い、まったく初めての相手先へ電話をかけるといったことがほとんどで、時には門前払いされることもあります。そんなことの繰り返しですが最終的に形になり、自分たちがつくり上げた施設や誘致してきたテナントにお客さまがたくさん来られて賑わっている様子を見ると、うれいですね。反応が見えやすいのが、この仕事の良いところ。オーナーの方に「良いテナントを紹介してもらった」と喜んでもらえることにも、やりがいを感じます。昨年からは、海外へも当社のノウハウを提供しようと、ベトナムへネットワークを広げているところ。ベトナムは社会主義国なので、日本企業による現地ビジネスは難しいのですが、新たなビジネスモデルを構築しているよう取り組んでいます。

最近よく思うのは、自分の手元に来たものを自分で望むように加工すれば、喜びに変えていくことができるということ。せっかく自分のところに来たものを何もしないまま手放してしまうのは、もったいない。運やチャンスがないと嘆く前に、来た球は打ち返さなければ、幸せは生まれません。どんな仕事も厳しいとは思いますが、楽しまなくては損。「学生のうちに遊んでおけ」とよく言われますが、社会人になっても、時間は作ろうと思えば作れるし、仕事から派生してくる遊びもあります。何より、新たな刺激をくれる価値観の異なった友人がたくさん増えます。仕事をすることは、楽しいこと。学生時代には知らなかった世界も開けてくるはず。です。

## 林 英生さん

【1999年 法学部法律学科卒業】

株式会社京阪流通システムズ 企画開発部 マネージャー

現在の仕事と学生時代に勉強した法律は、直接のつながりはないが、「職務上、法律の大切さはよく感じています。テナントや商業施設と契約書を交わすとき、法律用語の理解も含めて、比較的スムーズにやりとりができるのは、法学部で学んだおかげです」と言う。ゼミでは、イベント係としてゼミ旅行などを仕切っていたというから、その手腕も今の仕事につながっているのだろう。失敗談も聞かせてくれた。「ひらかたパークで冬のイベントを任されたとき、好きなスターウォーズのオークションなどを開催したのですが、これが大赤字。コアなお客さまには喜んでいただけましたが、パーク全体への波及効果はほとんどなく、自分の趣味で仕事をしてはいけないと反省しました」と振り返る。